

式 辞

今年の冬は、暖冬から一変、雪の降る日が多い冬となりました。ようやく梅の花のたよ
りも届き始めた今日の佳き日に、同窓会を代

表して副会長の小林邦夫（こばやし くにお）
様、PTA会長の小野浩一（おの こういち）
様を始めとし、多数の御来賓の方々の御臨席
を賜り、平成二十七年度栃木県立宇都宮東高
等学校の第五十一回卒業式が盛大に挙行でき

ますことは、私どもの大きな慶びとするところでありませう。

ただ今、本年度本校を巣立っていく生徒の皆さんに対し卒業証書を授与させて頂いていただきました。卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

心からお祝い申し上げます。

また、この日を心待ちにしていられた保護者の皆様にも衷心よりお慶び申し上げます。誠におめでとございます。

さて、卒業生の皆さんは、「正・剛・寛」の校訓のもと、六年間または二年間にわたる、勉学に勤しみ、部活動や学校行事に汗を流すことをとおし、自分を磨き、仲間と切磋琢磨することにより、大きく成長し、本日めでたく卒業の日を迎えることができました。今日

という晴れやかな日を迎えることができたのも、今まで、時には優しく、また時には厳しく皆さんを支援してくださった、御家族の皆様を始め、地域の方々、そして本校の先生方のおかげであるということを決して忘れてはなりません。

皆さんの卒業に際し、私からは特に心していただきたいことを三点お話しし、はなむけの言葉とさせていただきます。

一つ目は「豊かな人生を送るために、『あるいはお』にまつわる言葉を心に留めながら生活してほしい」ということです。今からお話しするのは、とある徳の高い僧侶が残した言葉だそうです。まず、「あ」は「愛」。常に相手のことを思い、他者を慈しむ無償の愛

を持って生きること。無償の愛とは、決して見返りを期待しない母親のわが子に対する愛のような深い愛を指しているそうです。「い」は「命」。新しい命を産み育てる、その命の大切さを知ること。また、多くの命を頂いて、自分の命を永らえていることに日々感謝すること。「し」は「運」。おこれることなく誠実に生きていければ自然と運が開けること。

「え」は「縁」。他者との日常的な関わり合
いの中で時としてかけがえのない良縁に恵ま
れること。「お」は「恩」。人から受けた恩
は絶対に忘れてはならない。今の自分がある
のは人様のおかげだということに感謝するこ
と。この話を聞いたとき、どれもまったくそ
のとおりであり、深い感銘を受けたのを覚え

ています。ぜひ、皆さんの「あいさつ」にまつわる言葉、「愛」「命」「運」「縁」「恩」を常に心の棚に置き、時々に取り出して教訓にしてもらいたいと思います。

二つ目は「学び続ける強い意志を持ち続けたい」ということです。皆さんがこれから飛び立とうとしている今現在の社会に目を向けてみますと、貧困の拡大、雇用不安、マイナス金利の導入などの経済に関わる問題、地球温暖化、原発事故、代替エネルギーなどの環境やエネルギーに関わる問題、出生率の低下、老人人口の増加、年金制度の破綻など少子高齢化に伴う問題、ネットいじめ、個人情報漏洩、サイバー犯罪などの高度情報化に伴う問題、難民の受け入れ、国際的なテロ

の発生、エボラ出血熱を始めとした感染症の拡大などのグローバル化に伴う問題など、すぐには解決できずに今後さらに深刻さを増していきそうな困難な課題が山積しています。本校では本年度、県の研究指定を受けます。次期学習指導要領の目玉となる「アクティブ・ラーニング」の調査研究を行いました。「アクティブ・ラーニング」は、生徒の思考力・判断力・表現力に加え、主体的に学習に取り組む態度や意欲を育成するための学習形態として注目されております。先ほど話した現在の社会が抱える様々な課題や、これには、今後発生するであろう新たな課題の本質を見極め、それを解決するためには「アクティブ・ラーニング」で期待されるような、豊かな

思考力・判断力・表現力を身に付けるとともに、課題を解決するために必要な知識や技能を常に主体的に学び続ける強い意志や意欲が今まで以上に必要になると思います。学び続けることはたやすいことではありませんが、明るい未来のためお互い頑張りましょう。

最後、三つ目は「中高一貫教育校として、また男女共学校として生まれ変わった新生宇都宮東高校の基礎を作り上げたことに誇りを持って欲しい」ということです。本校は、「宇

都宮市内に宇都宮高校以外の普通科男子校を」との県民の熱い思いが結実し、昭和三十八年四月に男子校として創立されました。その後、平成十九年度に男女共学の附属中学校が併設され、その時附属中学校に入学した第

一期生が高校に進学した平成二十二年度から学年進行で男女共学となり、平成二十四年度に三学年とも男女共学となってから四年目を迎えています。皆さんは、本校にとってこのような大きな転換期に本校生徒として在籍

し、先輩方や先生方と協力しながら、新生宇都宮東高校の基礎を作り上げていただきました。校長としてそのことに深く感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。今後は後輩達が、皆さんが作り上げてくれた基礎の上に、さらなる歴史を築き上げてくれるものと確信しております。卒業生の皆さんには、皆さんが基礎を作り上げた新生宇都宮東高校を、今後は同窓生の立場からバックアップしていただけたら、こんなに力強いことはありません。

ません。よろしくお願いします。

ところで、生徒の皆さんの前で話をする時には「元気ですか！楽しくなけりゃ宇東じゃない！」を最初の合言葉としてききましたが、明るく楽しい学校生活は送れたでしょうか。

また、皆さんが卒業した後も、「毎月十八日は宇東デー」です。毎月十八日には宇都宮東高校で過ごした日々を思い出すとともに、卒業後も「宇東高祭」の折りなどには、土産話を持って、学校に顔を出してください。

最後になりますが、本日御出席の保護者の皆様には、改めてお祝い申し上げますと併せて、六年間または三年間にわたり、本校に対して賜りました並々ならぬ御理解と御協力に深く感謝申し上げます。今後とも、御支援、御協

力を賜りますようお願いいたします。

また、御来賓の皆様には、御多忙中にもかかわらず御臨席を賜り、誠にありがとうございました。重ねて厚く御礼申し上げます。

別れに臨み、卒業生の皆さん一人一人に飛びつきり素晴らしい春が訪れることと、その行く末に「永久に幸あれ」と御祈念申し上げます。まして、式辞といたします。

平成二十八年三月一日

栃木県立宇都宮東高等学校長 大橋芳樹